

博士論文要旨

論文題名：発展途上国における移民送金が正規の起業家、貧困、所得不平等に及ぼす条件付き影響の評価について

立命館大学大学院経済学研究科

経済学専攻博士課程後期課程

アルハッサン ウスマン

ALHASSAN Usman

移民による送金が及ぼす発展の成果に関して学術的な議論が行われているにもかかわらず、現存する研究は、発展途上国における送金主導の開発を誘発する上での電子政府の潜在的な役割、送金と金融開発の補完性、労働供給の決定の側面を著しく無視している。本論文では、国際送金が途上国の起業家行動、貧困、所得格差に与える影響について、電子政府開発、金融開発、送金受領者の労働供給の決定を条件として検証している。ミクロおよびマクロの情報源からのデータを分析、およびさまざまなパネルデータおよびクロスセクションデータを用いた推定手法を適用することで、本研究結果は一貫して、送金が開発資金調達の効果的な手段となり得ることを示唆している。しかし、いくつかの留意点があり、電子政府アーキテクチャの開発に投資し、それらを在外国民にふり向けている国では、起業家精神の誘発、貧困削減、所得格差解消などの送金による正の開発効果が達成可能であることを示している。さらに、金融開発が進んでいる途上国は、開発目的で送金を利用する立場にあり、移民からの貯蓄を動員し、開発地域に廻すための国内金融機関が不可欠となっている。本論文はまた、ナイジェリアにおいて農業から非農業雇用機会への職業転換が行われ、特にインフォーマルセクターにおいて起業家精神の発展をもたらしている証拠を提供している。これらのファインディングは、電子政府と金融開発に依存する送金の開発への影響に関して微妙な理解を提供し、開発のための送金の利益を高めるのに役立つ重要な政策的意味合いを特定することによって、文献に貢献している。本研究は、移民を送り出す国が、開発途上国のベンチャー起業家の不十分さを補うために、移民が正規の企業のエンジェル投資家としての役割を果たすことができるデジタルプラットフォームを確立し、国内金融機関での移民の貯蓄を奨励するために特別な貯蓄金利を実施し、送金受取人の信用力を認識し、投資と企業の拡大のために正式な銀行融資を受けることができるようにすることで、送金融資を受けた中小規模の非農業企業を促進することを推奨している。

キーワード: 国際送金、電子政府、金融開発、金融包摂、貧困、所得格差、起業家精神、労働供給、公式・非公式セクター、開発途上国、ナイジェリア

JEL 分類コード: F24、J22、J24、L86、L26、M13、D23